

第 11 回第 2 次豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会

日時 令和 8 年 3 月 24 日 (火)

10:00～11:20

場所 香川用水記念会館多目的室

(門谷委員はウェブ会議システムにより
出席)

出席委員 (○印は議事録署名人)

河原 (長) 副委員長

○河原 (能) 委員

○平田委員

松島委員

門谷委員

I 会議の成立

- 事務局から、第 2 次豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会委員 5 名全員が出席しており、設置要綱第 6 条第 2 項の規定により会議が成立していることを報告した。
- 事務局から、本委員会の委員長であった永田勝也委員が逝去されたこと、現在本委員会設置要綱第 5 条第 4 項の規定により、河原副委員長が委員長職務を代理していることを報告した。

II 議事録署名人の指名

- 委員長職務代理者 (副委員長) が出席委員の中から、河原能久委員と平田委員を議事録署名人に指名した。

III 傍聴人の意見

<公害等調整委員会>

- (公害等調整委員会) 第 9 回のフォローアップ委員会に続き、出席させていただいている。よろしく願います。

<豊島住民会議>

- (豊島住民会議) 第 2 次豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会の先生方には、精力的に取り組んでいただき、心からお礼を申し上げます。
コロナウイルス感染症の影響により、急激に減少していた処分地視察者は、近年徐々に回復し、昨年 6 月、『よみがえる美しい島』の出版等もあり、確実に視察者は増えて

きている。今日も8時すぎから(株)クボタ、北海道大学、九州大学、明治大学等29名が処分地を視察に訪れた。

処理事業は精力的に行われているが、すべての計測点で安定して環境基準に適合する状態には至っていない。今後、雨量、水の蒸発散量、浸透量、地下水等の汚染物質濃度等を細かくモニタリングし、対策の検討をお願いします。豊島が瀬戸内海国立公園という美しい自然の中で、これにふさわしい姿を現すよう、頑張っていこう。

- (副委員長) ありがとう。それでは、お手元にお配りしている次第に従って会議を進めていく。まず議題1、第10回第2次豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会、持ち回り審議、R8.1.29資料送付という資料の報告を事務局からお願いします。

IV 審議・報告事項

1. 第10回第2次豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会— 持ち回り審議 (R8.1.29資料送付、R8.3.5決定事項の報告) の報告 — (報告)

- (県) それでは資料Ⅱ／1、第10回第2次フォローアップ委員会で持ち回り審議を行った結果をご報告する。資料Ⅱ／1をご覧いただきたい。ここでは、昨年11月に秋のモニタリングという形で行った地下水の環境基準への到達に向けての計測の実施状況と結果、それから、9月から11月の処分地全体の保全管理の状況、こちらの報告を第10回フォローアップ委員会として持ち回り審議を行った。資料Ⅱ／1の中の別紙3をご確認いただきたい。水質計測については、今後も地下水の環境基準への到達に向けての年4回の水質計測を継続していくことそれから、処分地全体の保全管理は、今後も定期及び臨時の巡視により、継続していくことを決定いただいている。資料Ⅱ／1については以上となる。よろしくをお願いします。

- (副委員長) ただ今の説明について、ご意見等あるか。それでは、次の議題2、令和7年度の豊島処分地維持管理等事業の進捗状況、その2について、事務局から説明願う。

2. 令和7年度の豊島処分地維持管理等事業の進捗状況 (その2) (審議)

- (県) では、続いて、資料Ⅱ／2、令和7年度の豊島処分地維持管理等事業の進捗状況 (その2) として、年度当初に設定した実施計画に従い実施している、本事業の進捗状況をご報告させていただく。

豊島処分地維持管理等事業の主な事項であるが、まず、環境基準の到達・達成に向け

た地下水の水質計測と、豊島処分地の地下水浄化対策の継続実施である。現在、処分地では、「環境基準の到達・達成マニュアル」と「各種調査の実施方針」に基づき、地下水の水質計測を継続している。

また、「地下水の自然浄化対策と維持保全管理マニュアル」に基づき、豊島処分地の地下水浄化対策を実施している。これらの結果を後ほど資料Ⅱ／3、Ⅱ／4でご審議いただければと思っている。

なお、現時点で排水基準を超過するようなリバウンドは確認されていないので、リバウンド対策は実施していない状況となっている。

豊島処分地全体の保全管理の継続実施では、「地下水の自然浄化対策と維持保全管理マニュアル」に基づき、処分地全体の保全管理を行っている。その状況を資料Ⅱ／4の方でご審議いただく。

2ページに進み、次に、雨水貯水池・浸透池の底泥除去の検討・判定についてである。まず、雨水貯水池は、これまでの委員会で審議・了承されているとおり、貯水量の変化を指数近似して得られた指数の変化をもって底泥の堆積状況を判断することが決定されている。こちらについても、令和8年2月時点での状況を資料Ⅱ／4でご審議いただければと思っている。

一方、浸透池については、「浸透池における底泥堆積状況の調査方法等」に基づき、令和8年1月に実施した底泥堆積状況の調査について現在分析中である。今後、結果を取りまとめて委員会に報告し、その結果を参考として、底泥除去の必要性の基準等についてご審議いただければと思っている。これは今後の検討という形になる。

「地下水計測点における濃度の変化に関する検討」の調査計画の策定は、第7回委員会において、「豊島処分地での地下水に対する自然浄化対策の実施と地下水濃度の計測結果に関する中間報告（その1）」の中で十分な解析・検討ができなかった地下水位と汚染物質の濃度関係を検討するため、雨水の汚染物質濃度への影響に対する実験的な調査等を含む調査計画を検討し、第9回委員会で中間審議いただいていた、次年度実施予定の委員会で引き続きご審議いただければと考えている。

地下水の環境基準の到達、達成の確認及び状況の評価としては、環境基準の到達又は達成の確認の要件に適合すると判断された場合には、地下水の水質計測の結果を整理して申請し、ご審議いただくこととなっているが、現在の状況でそれらの承認はなされていない、そういう状況には至っていないということになっている。

また、今年度行った事業の実施状況を踏まえて、令和8年度に実施する豊島処分地維持管理等事業の計画を、本日、資料Ⅱ／5-1、5-2のほうでご審議いただければと思っている。

資料Ⅱ／2については以上となるが、最後に、3ページ目に3として、今年度どういうスケジュールで行ってきたかを表として付けさせていただいている。9月と3月にこのような形での対面でのフォローアップ委員会を開催したということ。真ん中、やや

下になるが、維持管理の実施ということで、継続してマニュアルに基づく維持管理を行ってきたということ。それから、その1つ上になるが、5月、8月、11月、2月にはモニタリング計測を実施して、それぞれのところで環境基準への到達・達成があるかないかということの評価してきている。その結果をこうした形でフォローアップ委員会のほうにもご報告させていただいている。資料については以上となる。ご審議の程、よろしく願います。

- （副委員長）ただ今のご説明に関して、何かご意見、質問等あるか。特にないようであれば、また最後にもう1回、振り返ってここも含めてご意見いただくことにするので、次に行かせていただきたいと思う。

次に議題3、令和7年度 地下水の環境基準への到達に向けての計測の実施状況とその結果（その4）ということで、四半期ごとの報告を中心とした積極的な地下水浄化対策停止以降の水質結果について、事務局から説明をお願いします。

3. 令和7年度 地下水の環境基準への到達に向けての計測の実施状況と結果（その4） —四半期ごとの報告（令和7年冬季）を中心とした積極的な地下水浄化対策停止以降の水質計測結果—（審議）

- （県）それでは、資料Ⅱ／3ということで、令和7年度 地下水の環境基準への到達に向けての計測の実施状況と結果（その4）について、ご説明する。

豊島処分地の地下水における排水基準の達成から現在までの濃度計測に関する経緯と対応については、別紙1として、排水基準の達成以降の濃度計測に関する経緯等についてまとめたものを添付している。今回は、地下水の水質調査を令和8年2月に実施したことから、その結果については別紙2以降の資料でご報告したいと思う。別紙2をご覧ください。

現在、過去のフォローアップ委員会でご承認いただいた「各種調査の実施方針」に基づき、地下水の水質計測を実施しているところであり、今回、令和8年2月に実施した地下水の水質計測の結果についてご審議いただくものである。

別紙2の2ページをご覧ください。こちらの図1に示す地下水計測点①⑩⑪D西-1の4地点で、今年2月に行った水質調査の結果を表2でお示ししている。積極的浄化対策停止後の令和4年7月から今年2月までの調査結果をまとめたものを、続いて3ページの表3-1、4ページの表3-2としてお示ししている。

2ページの表2に示している2月の調査結果は、表1で示した仕様の観測井戸から採水して実施している。

また、これまでの結果の推移は、表3-1、表3-2、それから5ページの図2、6

ページの図3などである。近年において、排水基準の超過は確認されていない。2月の検査結果を見ると、水質項目のうち、地下水計測点⑪⑳㉑においては、1,4-ジオキサンのみが、また、D西-1でベンゼンとクロロエチレンが環境基準に適合する状況に至っていないが、それ以外については、環境基準値に適合した数字となっている。

次に、7ページの3、今後の予定である。令和7年度の水質計測については、令和7年3月に開催されたフォローアップ委員会において、地下水計測点での水質計測を年4回実施することとしていて、「令和7年度における各種調査の実施方針」が審議・了承されたことから、これに従って水質計測を実施してきたところである。

この後、「令和8年度における各種調査の実施方針」が審議・了承されれば、地下水の環境基準の到達に向け、年4回の水質計測を継続し、リバウンドが確認された場合はリバウンド対策を実施することにしていきたい。

簡単ではあるが、説明は以上となる。ご審議の程、よろしく願います。

○（副委員長）どうもありがとう。ただ今の説明について、ご意見とか質問等あれば、出していただきたい。いかがか。私のほうから1つ、昨年、濁水がひどかったのではないかと思うのだが、その影響を考えられる点は、何かあるか。

○（県）資料Ⅱ／4をご確認いただければと思うが、副委員長がおっしゃるとおり、雨が非常に少なかった。現地でも降雨量が冬場はほとんどなかったという状況なので、自然浄化のおおもととなる雨水がなかなか入らなかったということもあって、ジオキサン濃度はほぼ横ばいという状況になっているのが実情である。こうした時期もあるということで、逆に今度、モニタリングを続けていく中で、雨量が多い年があれば、どのように変化していくのかということところは細かく見ていきたいと思っている。

○（副委員長）どうもありがとう。他にあるか。どうぞ。

○（委員）ジオキサンがやはりしつこい。なかなか下がってこない。ただ、5ページの地下水の計測点⑪では典型的な地下水の季節変動のパターンが出ている。一般的に地下水というのは、あるところでドンと下がる。季節的に下がるということもあるのだが、供給源がなくなって下がってしまうのかなとは思っているのだが、そう出ている。左側の真ん中である。そうしたパターンは、地下水がきれいになっていく1つのパターンなのである。それが、⑪番に出ているので、これはよかったかなと感じている。

その横の⑳番については、大きな変動がない。なかなか地下水が流れにくいということもあるとは思っているのだが、これもあるところでドンと下がる場所が出てくると思う。そこが、地下水がきれいになっていく1つの目安だと思う。

ただ、それがいつなのかと言われると、なかなかいつとは言えないのだが、それを粘

り強く見ていくということかなと感じている。ただ、きれいになりつつあるなどということは見ることができると思う。

○（副委員長）よろしいか。他にいかがか。

○（委員）特にということはないが、やはり⑩番の原因というか、次の一手を考える上で、⑩番をもう少し注意深くモニタリングしながら、次年度もう少し立ち入って調査したほうがいいのかと、個人的には思う。

○（副委員長）どうもありがとう。他にご意見等あるか。特になければ、次に移らせていただく。議題4、令和7年度自然浄化対策の実施状況と豊島処分地全体の保全管理の状況（その4）について、事務局から説明をお願いします。

4. 令和7年度 自然浄化対策の実施状況と豊島処分地全体の保全管理の状況（その4） （令和7年12月～令和8年2月）（審議）

○（県）資料Ⅱ／4、自然浄化対策の実施状況と豊島処分地全体の保全管理の状況（その4）、令和7年12月から令和8年2月までについてである。

別紙1をご覧ください。1ページの2、観測・推定結果である。（1）の降雨量及び貯留量であるが、処分地の降雨量については、かがわWebポータルの「水防豊島」の観測値から引用しており、貯水池の貯留量については、貯留されている雨水の水位を実測し、この後出てくる5ページの表3の早見表などから算定をしているところである。

貯水池、浸透池の水位の測定は、令和6年4月以降は1か月ごとに行っている。ただし、概ね1日100mm以上、または、時間雨量30mm以上の降雨が確認された場合については、追加で計測をすることになっている。その結果は、2ページの図1から3ページの図4まで、あと4ページから5ページ上の表2でお示ししている。2ページの図1から3ページの図4までのグラフであるが、1日の降雨量について、赤色の棒グラフで示している。

4ページから5ページの表2は、令和5年4月以降、令和8年2月までの月間総降雨量や、貯水池や浸透池の月間最大水位などについてまとめている。

5ページの（2）地下浸透量の推定であるが、6ページにある表4と、7ページから9ページにある表5は、処分地内の貯留雨水の水位や貯留量、1日あたりの浸透量などについて、令和5年5月以降の状況をまとめている。このうち、令和8年1月6日から2月3日までは、3つの浸透池の貯留水を順次移送することで水位を調整し、各池の底

泥堆積状況の調査を行ったため、欠測と表示をしている。

なお、雨水貯水池では、計測期間中に渇水状態が生じることも多く、1か月ごとの視察管理ではその発生時期を把握することは難しいということで、今後は、監視カメラを設置して雨水貯水池が渇水状態となった日を観測することにより、蒸発散量を推定するよう試みることを考えているところである。

続いて、10ページの(3)地下浸透能力に関する経時的变化の推定である。雨水貯水池及び各浸透池の1日あたりの浸透量について、浸透池の貯水量の変化に基づき評価をしている。10ページの図5から次の11ページの図8までの4つの図になる。それぞれの図において、緑色の線で地下浸透量の傾向を傾きで記すとともに、指数を記載している。浸透池のいずれにおいても、指数はほぼ横ばいで推移しており、浸透状況の変化はないものと推定されるが、浸透池については、令和8年1月に実施した底泥堆積状況の調査結果について現在分析中であり、今後、結果を取りまとめて、底泥除去の必要性の判断方法、基準等についてご審議いただく予定としている。

次に、別紙1別添1として、雨水貯水池及び浸透池に関する地下浸透量の推定方法をお示ししているが、これは、先ほど(2)の地下浸透量の推定の項目で表4及び表5の結果を推定した方法をお示したものとなっているので、ご参照いただければと思う。

次に、別紙2をご覧いただきたい。令和7年12月から令和8年2月までにおける施設等のチェックリストの報告結果と対応についてである。「処分地の維持保全管理マニュアル」のチェックリストに基づき、施設の点検等を行っている。その結果については、処分地全体の維持保全管理上、特に支障となる事象はなかった。

令和8年3月3日現在の処分地の現場の状況写真を、写真1から4までで表示をしている。写真5であるが、北海岸の被覆石の部分から土砂の吸出しを受けているが、被覆石、土堰堤のズレはなく、また、土堰堤の法線を目視で定点観測をしているが、変化は見られず、本堤への影響も見られない状況であった。引き続き、経過観察を行っていることとしている。

3ページの表1には、県の職員がチェックを行った結果と対応等についてまとめているので、またご参照いただければと思う。説明は以上である。ご審議の程、よろしく願います。

- (副委員長)ただ今の説明に関して、ご意見や質問はあるか。

- (委員)浸透池、全体の水位を測るのは非常に大事だと思うが、写真とおっしゃっていた。写真はどのぐらいの頻度で、あれはリアルタイムで見ているのか。それとも数時間とか1日か。

- (県)今から設定がいろいろできる。

- （委員）それは非常に大事で、それをやれば、地下浸透量ももう一度あらためて再計算になるかもしれない。ペンマンも使うのか。
- （県）そうだ。
- （委員）それから蒸発散量等がある程度正確に出てくると思うので、ぜひそれはお願いしたいと思う。
- （県）はい。分かった。
- （副委員長）他にあるか。写真で見ると、経時変化は、写真1が一番古くて、順番に最近になっているということか。
- （県）別紙2は、同じ日の方角が変わってどう見えるかということで、載せさせていた
だいている。写真1だが、このときはたまたま雨が降った後に行ったので、浸透池の他
にも水が貯まり、貯水池のほうにも水が貯まっている状況が分かるかと思う。
- （副委員長）そうすると、今ごろはまるで水がないということが起こっているのら
うか。
- （県）起こっている。
- （副委員長）分かった。他にご意見、何かあるだろうか。
- （委員）少し堰堤に水道ができていうことで、そんなに堰堤は劣化していないと
いう判断をしている。
前に現場に行ったときもいろいろ言われたのだが、毎回言っているが、必ずこういう
堰堤というのは時間とともに損傷を受けて、だんだん駄目になっていく。現場で見なが
ら、いつ駄目になるか、性能がここまで来たら補修をしてという、その繰り返しをやっ
ていく。絶えず100%能力があるということは無理なので、そういうことを考えながら
やっていきたいと思っている。今、水道ができていうことはまだまだ大丈夫だと
判断している。
- （副委員長）どうもありがとう。

- （県）先生には前回視察いただいたので、アドバイスいただきたい。被覆石、土堰堤などにズレがないかや、水道ができていてもその横へのクラックが発生していないかなど、そうした点を確認して毎月やっているのだが、通常はそうした管理を行っておくことでよろしいか。
- （委員）はい。基本的に住民の方にも前は言ったのだが、側面に水平のひび割れがあったら、それは少し危険だ。もしくは、側面に膨らみが見える、側面に水平ひび割れが入る。これは少し危険な状態である。あと、頂部が少し陥没し、その陥没跡に水平のひび割れが入ってくると危険である。そうした状態があると、その後、急激に土堰堤が崩れる可能性があるので、それが見えたなら補修をしてほしいと、事務局にもお願いしている。以上である。
- （県）了解しました。注意して確認していきたい。
- （副委員長）他に何かあるか。最後の議題になるが、令和8年度豊島処分地維持管理等事業の年度計画（1）（2）まで、まとめて事務局から説明をお願いします。

5. 令和8年度の豊島処分地維持管理等事業の年度計画

（1）令和8年度の豊島処分地維持管理等事業の実施計画（審議）

- （県）令和8年度の豊島処分地維持管理等事業の実施計画について、ご審議いただきたいと思う。

令和8年度予定している事業の主な内容だが、（1）令和9年度の豊島処分地維持管理等事業の計画策定、こちらは令和8年度1年間やってきた内容を踏まえながら、令和9年度の実施計画を策定いただくことを予定している。

（2）豊島処分地の地下水浄化対策の継続実施、こちらについても、第18回のフォローアップ委員会でご審議・承認いただいたマニュアルに従い、地下水の自然浄化対策を今後も継続実施していきたいというものである。

また、リバウンド現象が確認された場合は、リバウンド対策も実施していく。

（3）環境基準の到達・達成に向けた地下水の水質計測の実施、こちらについては、Ⅱ／5－2の資料で皆様にご審議いただく「実施方針」に基づき、地下水の水質計測を継続していきたいと考えている。

（4）地下水の環境基準の到達及び達成の確認及び状況の評価については、「環境基準の到達・達成マニュアル」に基づき、そうした達成の確認等の要件に適合すると判断した場合には、皆様にご審議いただきたいと思ってい

る。

(5) 豊島処分地全体の維持管理の継続実施について、こちらも「維持保全管理マニュアル」に基づき、来年度も豊島処分地全体の保全管理を継続して行っていきたいと考えている。また、マニュアルに基づき異常時、緊急時等にも、その臨時的点検を行っていき、その結果をフォローアップ委員会に報告するとともに、委員会の指導・助言をいただき対応したいと思っている。

1) の雨水貯水池・浸透池の底泥除去の検討・判定だが、こちらについて、第5回の第2次フォローアップ委員会で雨水貯水池及び浸透池の底泥除去等の方法をご審議・承認いただいたが、今後も雨水貯水池や浸透池の水位、それから降水量のデータの整理、分析結果をベースに底泥除去の必要性を判断いただき、必要と判断された場合には底泥の除去等を検討していきたいと考えている。

2) 浸透池の底泥除去の検討とその判定の確定だが、浸透池については、これまで底泥の堆積状況の調査ができていなかった。こちらについては令和8年1月に調査を実施していて、今現在とりまとめ中であるが、そちらの結果を取りまとめ次第、フォローアップ委員会にご報告し、底泥堆積状況の判断方法についてご審議いただきたいと思っている。

(6) 「地下水計測点における濃度の変化に関する検討」の計画策定については、令和7年度に中間審議いただいたが、こちらの審議を令和8年度も継続していただき、調査計画の審議・策定をいただきたいと思っている。

(7) 周辺環境モニタリングの継続実施についても、5-2の「実施方針」に従い、これまで同様、年1回のモニタリングを継続して実施していきたいと考えている。

(8) その他になるが、こちらはまた必要があれば、マニュアルやガイドラインの改訂を適宜実施していくので、皆様にご審議いただきたいと思っている。今現在予定しているマニュアルの改訂等はないが、必要が生じる都度、皆様にご審議いただきたいと思っている。

最後に令和8年度に予定している年間の工程案になる。一番上、第2次フォローアップ委員会の開催については、令和7年度と同様に持ち回り審議、それから対面での開催を交えながら4回の開催を予定している。令和9年度の計画策定については、令和8年度、最後の3月のフォローアップ委員会で皆様にご審議いただきたいと考えている。

それ以降、地下水のモニタリングだとか、処分地の維持管理については、令和7年度と同様に1年間通じて継続して実施していきたいと考えている。「地下水計測点における濃度の変化に関する検討」の計画策定については、検討を続けていき、9月、それから3月のフォローアップ委員会でご審議いただきたいと考えている。

周辺環境モニタリングについては、年1回、令和7年度と同様に6月、7月あたりに実施して、その結果を9月に報告するというを予定している。

(2) 令和8年度における各種調査の実施方針（審議）

○（県）続いて、5-2、実施方針を説明させていただく。「令和8年度における各種調査の実施方針」は、2の方針に示しているとおおり、地下水の水質計測はこれまでどおり年4回を、周辺環境モニタリングもこれまでどおり年1回の実施ということで予定している。

別紙1には「各種調査の実施方針」として、水質計測の計測項目、それから計測頻度、周辺環境モニタリングの水質、底質、それぞれの計測項目と計測頻度を示している。こちらも令和7年度と変更しているところはないので、これまでどおり継続していきたいと考えている。

以上が令和8年度の実施計画と実施方針についての案となる。よろしくご審議の程、願います。

○（副委員長）どうもありがとう。ただ今の説明について、ご意見、質問をお願いします。

○（委員）浸透池の底質の調査結果は、いつぐらいに出てるのか。

○（県）もうすぐ分析が終わるので、6月の持ち回りの頃には結果が出ていると思う。

○（委員）どんな感じだろうか。今までの一般の貯水池と変わっているところはあるのか。結果は見れば分かるのだろうが。

○（県）雨水貯水池、浸透池の周り、我々が普段歩いたり車で入っていたりしているところとはやはり違い、上のほうに3から5cm程度、どろっとしたようなものがあるなというのは、下を歩いてみて感じたところである。ただ、その3cm、5cmを剥いだ後は、細かい砂状のようなものが見えてきたかなと感じているが、細粒分の含有率については、また数値として出てくるようになるので、ご報告させていただきたい。

○（副委員長）今年度、来年度に向けて、水質のモニタリングはどうなっていくかという調査は、来年度検討するという事になったのか。

○（県）そのとおりである。

○（副委員長）しっかり検討することが大事だと思う。了解した。

○（委員）今おっしゃった実施計画について、特に異論があるわけではないのだが、今日

の議論を聞いていて感じたことは、情報のアーカイブス化ということだ。デジタルデータはしっかり取られており、写真を見せていただいたが、人間の視点の高さ1.5mぐらいのところから横を見たところの情報はずっとこの間、貯まっているが、どうしても俯瞰的な情報が少ないので、空間情報というか、図に作り直したときと、実際に今はどうなっているかという映像とのギャップがあるような気がする。可能であればドローンか何かで俯瞰的に情報をアーカイブス化していくことが大事なのではないかと思ったのだが、その点、可能性としてはいかがか。

- （県）事務局だが、年に数回、現場の上を空中監視で飛ぶ機会があるので、その際に必ず写真は撮っている。そうした写真とまた見比べてご相談させていただければと思う。よろしく願います。
- （委員）そうか、それがあると非常にいいのだが、そのときに、高度が問題なので、それはきっちり映像を撮るときに合わせておくということをしてほしいと思うのだが。
- （県）処分地全体が写るような形で撮ってきているので、高度をぴったり合わせるというのは難しいかもしれない。
- （委員）マーカーがちゃんと分かればいいと思う。
- （県）はい。
- （委員）後で、地上との比較をするときに、スケールが長いと難しいと思っているが、スケールになるようなものが解像度正しく得られれば、私の意図はそこに入っていると思う。いいのではないだろうか。
- （県）はい、ありがとう。
- （副委員長）他にご意見あるか。それでは、特にないようだが、今までの議論をとおして、後から気が付いた点とか何かあれば、全体をとおして何か意見等あるか。特にはないか。

6. 委員長・副委員長の選定、委員補充の要否

- （副委員長）それでは、以上で本日準備していた議題が終了したところだが、私から1点、議題を追加したい。今回の委員会については、委員長の急逝に伴い、副委員長であ

る私が委員長職務を代行して執り行ったが、委員長不在の状況が続くのは望ましくないので、新しく委員長及び副委員長を選出したいと考えている。委員長はそれぞれの委員の互選によって決めるということになっている。委員の皆様が出席いただいている本日、ここで新委員長と新副委員長の選定を行いたいと思うが、よろしいか。どうもありがとうございます。

それでは、新委員長と副委員長の選定に入りたいのだが、候補者について、言いにくいだろうから、私から口火を切らせていただくが、現在の豊島廃棄物処理事業は雨水の浸透とか自然浄化に絡む地下水モニタリングを中心としたことが重要な中心議題になっている。そこで、その地下水汚染の専門家である平田委員に委員長をお願いできないかと。私、この中ではいきさつを長く知っているのだから、地の利もあるから引き続き副委員長を引き受けることもできる。私は、水質浄化のほうが専門だが、そういうことで平田委員長、河原が副委員長ということでやるのはどうか考えるが、いかがか。やりたいという人があったら、出してもらったらいいのだが。よろしいか。

- （委員）よろしいか。平田先生はじめ河原先生、水質のことの重要性を考えると、お二方に、平田先生が委員長で引っ張っていただくとということで、ありがたいと思う。賛成する。
- （副委員長）どうもありがとうございます。委員の補充については、もし、もっと浄化を進めないといけないというところで、何か議論で彼がいいというような人が選ばれてくるような段階では、新しい委員を選定することも必要ではないかと思うが、現状ではまだ浮かんでいないので、委員の補充はなしということにさせていただいて、新委員長・副委員長、それから委員の補充なしと、この2点、了解いただけるか。
- （委員）はい、結構であり。賛成する。
- （副委員長）よろしいか。了解した。どうもありがとうございます。平田委員長、少し挨拶いただきたい。
- （委員）今、委員長に選出され、とても厳粛に受け止めている。
豊島住民の方々はじめ多くの方々のご苦勞とご努力の上でこの委員会が運営されてきているので、その中で審議内容とか、あるいは取り決めされた内容は十分に尊重して、慎重に皆様方のご協力を得ながら、会議を進めていきたいと思うので、よろしくお願ひする。
- （副委員長）どうも。以上で、本日の議題は終了させていただく。

V 傍聴人の意見

<豊島住民会議>

○（豊島住民会議）4点ある。順番に説明していくが、資料Ⅱ／3の別紙2を開けていただきたい。別紙2の2ページ、表2、地下水計測点の水質の調査結果、2月というところで少し質問がある。この表だが、北海岸は遮水壁を抜いているので、海水がもう少し入ってもいいと思うのだが、塩化物イオンの量がどれも少ないというところで、説明をお願いしたい。海からの関係でいうと、㊸と㊹がほぼ同じ位置で、その次にD西-1があつて、一番山側が㊺になるわけだが、塩化物イオンの量を見ると、D西-1がかなり少ないので、これはどう考えたらよいかということ、教えていただきたいというのが1番目である。

2番目が、その続きの7ページで、今後の予定ということで、地下水計測は来年度、年4回するということがあったが、今までのフォローアップ委員会の議論等を聞いていると、雨が降ったときの地下水の水質の変動がどうあるのかみたいなことで、もう少し計測の回数を増やしたほうが良いというような意見があつたと思う。それで、来年度も年4回にするのではなくて、年6回とか、場合によっては月1回でもいいと思うのだが、計測頻度を増やしてはいかかというのが2つ目の疑問である。

3番目が、資料Ⅱ／4で4ページの表2、豊島処分地の月間降雨量データと貯水池の水位とかいう一覧表がずっとあるのだが、冒頭、副委員長が今年は降雨量が少なかったという話をされたが、月間の雨量はずっと書いてあるが、年間にして、今年度はどれくらい少なかったのかが分かるように、一覧表というか、例年よりも1割、2割少なかったのか、もっと、半分くらい少なかったのかといったことが分かるようにした上で、水位の変動などを評価していただいたほうが分かりやすいのではないかと思いますので、ご検討いただきたいというのが3番目である。

4番目は、委員がお話しされていたこととも関係するが、資料Ⅱ／4の別紙2の写真が4枚か5枚あるのだが、別紙2の1ページの写真1、豊島処分地東側から撮影というふうに撮っている写真だが、水がたくさん貯まっているように見えているところが一番処分地の東側で、以前、大きなトレンチがあつたところだが、逆に西側に行くと水が貯まっていない。途切れてしまう。もともとこの処分地は、西海岸のほうから水を抜くように傾斜を付けて整地したはずだが、そうはいつてなくて、雨が降ると最後まで、浸透池を除くと東側の部分に水が貯まる傾向があるので、このへんをどう考えるのか。今後、写真をちゃんと撮ってとか、あるいはドローンで全体を俯瞰しようというような議論になっているのだが、私、この間、月に1回くらい現場を見る機会があるので、ご意見させていただいた。

○（副委員長）どうもありがとう。最初の質問は答えられるか。塩化物イオンがなぜ低い

かという問題。

- （委員）では、私から。D西-1はおそらく風化花崗岩、風化土壌のちょうど上のほうで、地下水の流れが速いと思う。そうした意味で濃度が低いのかなという感じがする。
それと、あと年4回、年6回の話があったが、これは来年度、いつからか分からないが、写真で貯まり状態を撮る。そうすると、写真は6時間に1回ということは日平均が出てくるので、ペンマンと日平均のものから浸透量がもう少し正確に出ると思う。浸透量を正確に出したときに、浸透量が多いと地下水が上がっているというふうに、地下水を直接関係させるのは難しいところがあるのだが、その日変動量を見ながら、本当に現実の濃度が、水位が上がっている状態なのか、下がっている状態になるかといったところの判断も少しできるのかなという感じがするので、それを見て、地下水の濃度がどういところを反映しているのかということを見ながら、増やさなければいけないのであれば増やす、4回でいいのであれば4回でいいという判断はできると思う。これまでは単に季節的な変化を捉えていこうということで年4回。次年度以降は、もう少し浸透量を明確にして測って、その浸透量と地下水位がイコールではないのだが、たぶん、だいたいよく似てくるはずなので、そういうところでもって地下水濃度を改めて解析していきたいということだと思う。それから、年間降雨量については、また後ほどデータで出るのか。
- （県）はい。これは積算上、出てくるので、また表への反映の仕方というのは検討するし、ご相談させていただければと思っている。
- （委員）あとは、写真のほうはもう少し、委員からもあったが、全体に分かるような、季節的なものが分かるような、我々は現地に頻繁に行けるわけではないし、豊島住民会議はたびたび行かれているみたいだが、我々には行っていないので、そのへんのところが分かるような情報を出していただくということで、よろしくお願ひしたい。
- （県）ありがとう。最後、4番目で東側のほうに水がということだったが、今、自然浄化でやっていく上では水をここにどう貯めておくかというところが問題になってこようかと思うので、現状、自然浄化をやっていく上では、ここに水が貯まってくれるというのはありがたい話だと思っている。
- （副委員長）豊島住民会議、よろしいか。
- （豊島住民会議）はい、結構だ。地下水の水質の変動については、来年度少し考えるということなので、議論していただければいいかと思う。

○（副委員長）それでは、続いて、公害等調整委員会、よろしく願います。

＜公害等調整委員会＞

○（公害等調整委員会）資料のご説明と活発なご審議をいただき、ありがとう。委員から、地下水の状況について、きれいになりつつあるといったご発言があり、これまでの成果が着実に表れてきているのではないかという印象を持った。

来年度も参加させていただくので、引き続きよろしく願います。

○（副委員長）どうもありがとう。最後に事務局や、委員の皆さんから何か一言あるか。特にないか。では、終了する。

VI 閉会

○（秋山環境森林部長から挨拶）

○（副委員長）以上を持って、第11回第2次豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会を終了する。本日はどうもありがとう。

以上の議事を明らかにするため、本議事録を作成し、議事録署名人が署名押印する。

令和 年 月 日

議事録署名人

委員

委員